

公開70周年記念

映画『羅生門』展

Rashomon at the 70th Anniversary

2020年9月12日〔土〕－12月6日〔日〕 ※月曜日は休室です。

国立映画アーカイブ 展示室（7階）

主催：国立映画アーカイブ、京都府京都文化博物館、映像産業振興機構
協力：文化庁、株式会社 KADOKAWA、株式会社アイ・ティー・ワン



「羅生門」セットと雨

©KADOKAWA 1950 国立映画アーカイブ所蔵

撮影現場、宣伝公開から映画祭受賞、世界への影響まで —日本映画史上の傑作を徹底解剖！

1950年8月26日に劇場公開された映画『羅生門』は、国内では大ヒットにはならなかったものの、監督黒澤明の芸術的な野心が認められ、1951年9月にヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を受賞、さらに1952年3月に米国アカデミー賞名誉賞を受けることで国際的な評価を確立し、黒澤の、ひいては日本映画の水準の高さを世界に知らしめ、戦後復興のひとつの象徴にもなりました。

『羅生門』は、黒澤の卓越した演出力だけでなく、それまでの日本映画の作り方を革新した数々のスタッフワークに支えられています。登場人物のそれぞれ食い違う証言が真実を覆い隠してしまう橋本忍の脚本術、ロケーションを活かしあえて太陽にカメラを向けた宮川一夫の斬新な撮影、巨大な羅生門をオープンセットとして造形した松山崇ら美術スタッフの功績、日本の中世の物語にポレロ調の旋律を大胆に組み込んだ早坂文雄の音楽、そのような職能のアンサンブルがこの映画の醍醐味となっています。

この展覧会では、世界初展示の品も含めてこうした名スタッフの功績の実際をデジタル展示も用いて紹介するほか、それぞれくっきりした人物像を創造した三船敏郎・京マチ子・森雅之・志村喬といった名優にも注目、さらにはヴェネチアでの受賞をめぐる当時の資料やこの映画が世界に与えた影響についても触れます。

展示の構成と見どころ

黒澤明と日本映画の実力を世界に知らしめた『羅生門』を、企画から撮影、公開、世界展開にいたるまで、各種の資料によって多角的に迫り、本作を彩る様々なエピソードを再検証するとともに、デジタル技術を使った新しい資料展示の可能性にも取り組みます。

第1章 企画と脚本

のちに名脚本家となる橋本忍がデビュー前に書いたシナリオが、映画『羅生門』になるまでには多くの変転がありました。本章では、芥川龍之介作品への着目から始まったアイデアが映画の企画となり、ひとつの映画シナリオへと結実するまでをご紹介します。

主な展示品 手書きによる『羅生門』企画シナリオや、実質的なプロデューサーである本木荘二郎旧蔵の撮影台本など

第2章 美術

『羅生門』は、2つだけのセットとロケーションという一見安上がりな企画でしたが、羅生門のセットは撮影準備中に黒澤のイメージが膨らんで、通常予算を上回る巨大なものとなりました。本章では製作時から話題となっていた映画美術に焦点を当てています。

主な展示品 『羅生門』で使用された扁額の再現画や、美術監督松山崇旧蔵の『羅生門』写真アルバムなど

第3章 撮影と録音

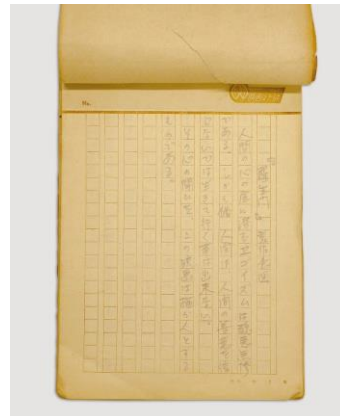
太陽に向けられたカメラや近隣の水道を止まらせるほど大量の水を使った雨のシーンなど、『羅生門』の撮影は多くのエピソードに彩られています。本章では、撮影の宮川一夫、スクリプターの野上照代の撮影台本を使った新しいデジタル展示の試みや関係者のインタビューを交えながら、『羅生門』の撮影の秘密に迫ります。

主な展示品 森のシーンのカット尻フィルムの映像展示や、野上照代の撮影台本など

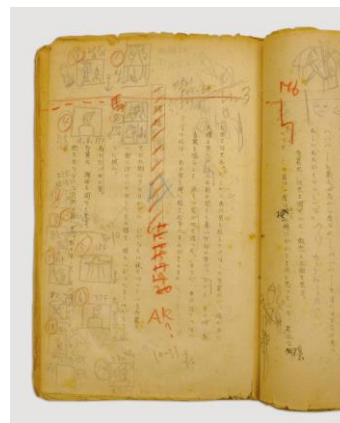
第4章 音楽

『羅生門』前後の黒澤作品の音楽を手掛けた早坂文雄は、優れた作曲家というだけでなく、黒澤監督の創作活動にも影響を与えた盟友でした。有名なボレロ形式のテーマの楽譜スケッチなど、早世した天才作曲家が残した貴重な資料を通じて、映画の構成を活かした早坂独自の創作術をかいま見ることができます。

主な展示品 音楽プランを綿密に検討した作曲家早坂文雄自筆の音楽構成表や、楽譜（スケッチと総譜の一部）など



『羅生門』企画シナリオ
東映太秦映画村・映画図書室所蔵



野上照代の撮影台本
野上照代氏所蔵



松山崇『羅生門』写真アルバム
©KADOKAWA 1950
玉川大学 教育学術情報図書館所蔵

第5章 演技

本章では三船敏郎と志村喬の撮影台本を中心に、限られた登場人物と複雑な構成を持つ『羅生門』を成功させた俳優たちの多大な貢献に着目いたします。

主な展示品 三船敏郎や志村喬の使用台本や、京マチ子旧蔵写真アルバムなど



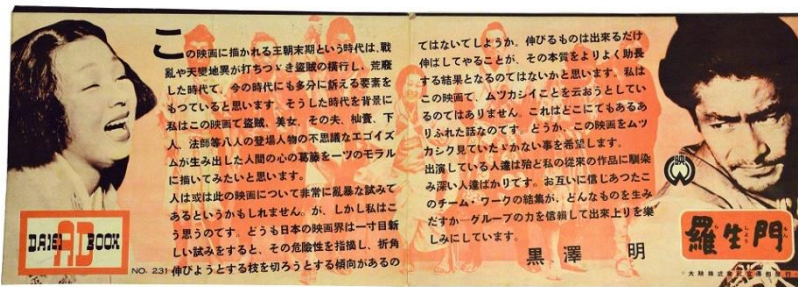
スタジオ撮影スチル写真

©KADOKAWA 1950 株式会社 KADOKAWA 所蔵

第6章 宣伝と公開

本章では、初公開からヴェネチア国際映画祭受賞後の凱旋上映やリバイバル公開など、国内上映の軌跡をご紹介します。特に劇場公開オリジナルポスターや公開直前に開催された特別試写会など、金獅子賞受賞前の『羅生門』を伝える貴重な資料にご注目ください。

主な展示品 劇場公開オリジナルポスターや、プレス資料「DAIEI AD BOOK」No.231 など



「DAIEI AD BOOK」No.231

©KADOKAWA 1950 横田寿文氏所蔵



劇場公開オリジナルポスター

©KADOKAWA 1950 谷田部信和氏所蔵

第7章 評価と世界への影響

1951年のヴェネチア国際映画祭金獅子賞受賞は、世界が日本映画を“発見”したと同時に、日本映画界が世界に通用する自らの実力に気づくきっかけになりました。本章では、ヴェネチア国際映画祭出品の経緯とともに、受賞後の反響と影響を、アメリカを中心に多角的にご紹介します。

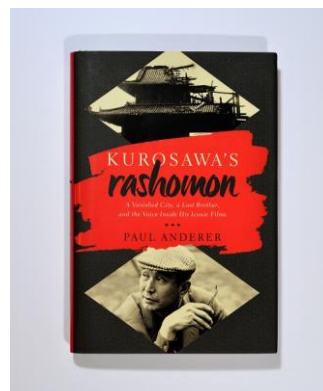
主な展示品 ヴェネチア国際映画祭金獅子賞トロフィ〔複製〕や、ブロードウェイ版『羅生門』の宣伝写真、ポール・アンドラ著『黒澤明の羅生門』原書など



本木荘二郎旧蔵

ヴェネチア国際映画祭金獅子賞トロフィ〔複製〕

国立映画アーカイブ所蔵



Paul Anderer, *Kurosawa's Rashomon*.

[ポール・アンドラ著『黒澤明の羅生門』原書]

横田寿文氏所蔵

特別コーナー：旅する羅生門

このコーナーでは各国のポスターや宣伝材料を中心にご覧いただきながら、『羅生門』の卓越した国際性に光を当てます。

主な展示品 西ドイツのリバイバル公開版ポスターや、アメリカのオリジナル版ロビーカードなど



アメリカ オリジナル版ロビーカード
槇田寿文氏所蔵



西ドイツ リバイバル公開版ポスター
[ハンス・ヒルマン作]
槇田寿文氏所蔵

映画『羅生門』上映

上映企画「生誕 100 年 映画俳優 三船敏郎」で『羅生門』の上映を予定しております。

生誕 100 年 映画俳優 三船敏郎

会期：2020 年 10 月 2 日（金）～10 月 22 日（木）※月曜休館

会場：国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU [2 階]

戦後日本映画を代表するスターとして豪快な活躍を見せながら、監督、プロデューサーとしても活動し、世界中に多大な影響を与えた三船敏郎（1920-1997）の生誕 100 年を記念し、『羅生門』の上映も含めてその軌跡を回顧します。

（*詳細は当館HPなどをご覧ください。）

展覧会公式図録

公開 70 周年記念 映画『羅生門』

監修：国立映画アーカイブ

発行：国書刊行会

刊行予定日：2020 年 10 月中旬販売予定

ISBN：978-4-336-07060-9

A4 変型判 本体価格：予価 2,400 円＋税

開催概要



展覧会チラシ

展覧会名	公開 70 周年記念 映画『羅生門』展 / Rashomon at the 70th Anniversary
主催	国立映画アーカイブ、京都府京都文化博物館、映像産業振興機構
協力	文化庁、株式会社 KADOKAWA、株式会社アイ・ティー・ワン
会期	2020 年 9 月 12 日（土） - 12 月 6 日（日）
休室日	月曜日は休室です。
開室時間	午前 11 時 - 午後 6 時 30 分（入室は午後 6 時まで）
会場	国立映画アーカイブ 展示室（7 階）
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口 1 から昭和通り方向へ徒歩 1 分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口 A4 から中央通り方向へ徒歩 1 分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口 7 より徒歩 5 分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩 10 分
料金	一般 250 円 / 大学生 130 円 / シニア・高校生以下及び 18 歳未満、障害者（付添者は原則 1 名まで）、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 * 料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * 学生、シニア（65 歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。 * 国立映画アーカイブの上映観覧券（観覧後の半券可）をご提示いただくと、1 回に限り一般 200 円、大学生 60 円になります。 * 2020 年 11 月 3 日（火・祝）「文化の日」は、展示を無料でご覧いただけます。
新型コロナウイルス感染症対策について	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館では換気と清掃の強化、消毒液の設置、スタッフのマスク及び手袋の着用、受付等での飛沫ガードの設置などを行っております。また混雑状況により入館を制限することがあります。 詳しくは当館ホームページをご確認ください。（ www.nfaj.go.jp ）
巡回先	京都府京都文化博物館 総合展示室 2021 年 2 月 6 日 [土] ~ 3 月 14 日 [日] ※展示内容は一部変更になる場合がございます。
お問合せ	050-5541-8600（ハローダイヤル）
HP	https://www.nfaj.go.jp/exhibition/rashomon2020/

【本展覧会に関するお問合せ】

国立映画アーカイブ 事業広報担当：横田 / 展示・資料室：岡田・濱田

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 pr@nfaj.go.jp

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

「公開70年記念 映画『羅生門』展/Rashomon at the 70th Anniversary」

送付先 国立映画アーカイブ 広報担当行
 メール：pr@nfaj.go.jp FAX：03-3561-0830

* 広報用画像をご希望の方は、本プレスリリースに掲載されている画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの□にチェックをつけ、上記の宛先までをご送付ください。

①	「羅生門」セットと雨 ©KADOKAWA 1950 国立映画アーカイブ所蔵
②	本木荘二郎旧蔵 ヴェネチア国際映画祭金獅子賞トロフィ [複製] 国立映画アーカイブ所蔵
③	『羅生門』企画シナリオ 東映太秦映画村・映画図書室所蔵
④	野上照代の撮影台本 野上照代氏所蔵
⑤	松山崇『羅生門』写真アルバム ©KADOKAWA 1950 玉川大学 教育学術情報図書館所蔵
⑥	スタジオ撮影スチル写真 ©KADOKAWA 1950 株式会社 KADOKAWA 所蔵
⑦	劇場公開オリジナルポスター ©KADOKAWA 1950 谷田部信和氏所蔵
⑧	「DAIEI AD BOOK」No.231 ©KADOKAWA 1950 槇田寿文氏所蔵
⑨	アメリカ オリジナル版ロビーカード 槇田寿文氏所蔵
⑩	西ドイツ リバイバル公開版ポスター [ハンス・ヒルマン作] 槇田寿文氏所蔵
⑪	Paul Anderer, <i>Kurosawa's Rashomon</i> . [ポール・アンドラ著『黒澤明の羅生門』原書] 槇田寿文氏所蔵
⑫	展覧会チラシ

画像データ貸出希望日時	月	日	時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組	名(合計)	枚) 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。*画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。*掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____